

国指定名勝 横浜・三溪園 入園料金・駐車場料金改定のお知らせ 2023年10月1日(日)

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、2023年10月1日(日)から入園料金および駐車場料金を改定します。

横浜の中心地にありながら豊かな自然環境と文化財建造物や美術品など価値ある文化財が一体となった三溪園は、震災や戦災など幾多の危機をくぐり抜け、明治時代末の開園から守り伝えられてきました。現在、10棟の重要文化財と3棟の横浜市有形文化財をはじめとする17棟の建造物を保有し、三溪園全域が文化財として国の名勝に指定されています。



「美しい自然の風景や先人の遺した文化財は共有財であり、私有するものではなく誰もが楽しむべきもの。」

1906年(明治39)、こうした信念のもと実業家・原三溪が私邸を公開してから、国内外を問わず多くの方々に長く親しまれてきましたが、戦後の大規模な改修から65年が経ち、園内の庭園や建造物には荒廃や傷みが目立ち、補修や耐震への備えが必要になってきています。また、ゆかりの美術工芸品や資料の保存、ならびに展示環境の整備も課題となっています。

これまで入園料金等の維持に努めてまいりましたが、文化財の維持・補修費用や光熱費をはじめとする昨今の施設管理費の高騰を受け、経営の見直しを図るとともに、このたび入園料金および駐車場料金を改定することとしました。世界に誇る日本の文化遺産である三溪園を今後もより多くのお客様に快適にお楽しみいただけるよう、施設価値の維持・向上に取り組んでまいります。

■2023年10月1日からの料金

入園料金

種別		現行料金	改定後料金
個人	大人（高校生以上）	700円	900円
	子供（小・中学生）	200円	変更なし
	横浜市内在住の65歳以上	200円	700円
団体（10名様以上）	大人（高校生以上）	600円	800円
	子供（小・中学生）	100円	変更なし
	教職員の引率がある学生（高校生以上）	300円	400円
年間パスポート	大人（高校生以上）	2,500円	変更なし
	子供（小・中学生）	700円	変更なし
	横浜市内在住の65歳以上	700円	2,000円

駐車場料金

種別	単位	現行料金	改定後料金
乗用車、その他小型車	入場から2時間まで	500円	1,000円
	2時間を超えた場合、30分毎	100円	200円
	1日の上限額	1,000円	上限なし

バスの駐車場料金は、従来どおり1台1回1,000円です。

■その他改定内容

割引サービスの一部廃止

- ・「回数券」「前売券」は、2023年6月30日をもって販売を終了します。ご購入済の券は今後ご利用可能です。
- ・小中高校生を対象とした「第2・4土曜日入園料無料サービス」は、2023年9月30日をもって終了します。

休園日の改定

- ・庭園整備のため、2023年12月より毎年12月26日～31日を休園日とさせていただきます。年始は従来どおり、毎年1月1日から開園します。

■施設価値向上に向けた主な取り組み

項目	内容
桜・紅葉ライトアップの充実	LED電球への切り替え、エリア拡大
ウェブサイトの改修	花・美術品・建造物等情報発信の強化
Wi-Fiサービスの拡充	エリア拡大
南門トイレの改修	ユニバーサルデザインへ仕様変更
ロッカーの交換	新品へ交換
庭園整備	正門桂垣の改修工事、大池護岸の修理工事、案内板の交換等
文化財建造物の保存修理	2020年9月～2023年12月予定：旧東慶寺仏殿 2022年10月～2024年3月予定：月華殿

◆三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって創られ、1906年(明治39)5月1日に一般公開されました。約17.5ha(東京ドーム約3.7個分)に及ぶ園内には、廃仏毀釈などによる荒廃から守るため、京都や鎌倉などから移築された歴史的価値の高い建造物が巧みに配置されており、古建築と自然が調和した四季折々の景色が楽しめる日本庭園です。開園当初は「遊覧御随意」を掲げ外苑を24時間無料開放するなど、「美しいものはみんな一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されています。原三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観、下村観山、前田青邨らを輩出するなど、日本美術への貢献も評価されています。戦災により大きな被害をうけ、1953年(昭和28)に原家から横浜市に譲渡されるのを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、現在に至ります。2007年(平成19)には国の名勝に指定され、現在園内にある17棟の古建築のうち10棟が重要文化財、3棟が横浜市指定有形文化財に指定されています。

◆原三溪について

原 三溪(本名 富太郎) <1868年(慶応4) -1939年(昭和14)>

岐阜県厚見郡佐波村(現在の岐阜県岐阜市柳津町)で代々に渡り、庄屋をつとめた青木家の長男として生まれる。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、1885年(明治18)東京専門学校(現在の早稲田大学)に入学、政治・法律を学ぶ。1888年(明治21)頃に跡見学校の助教師になり、1891年(明治24)、原善三郎の孫娘、屋寿と結婚し原家に入籍。原家の家業を継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収める。住まいを本牧三之谷・三溪園へ移すと古建築の移築を開始し、1906年(明治39)三溪園を無料開園。1923年(大正12)の関東大震災後は、荒廃した横浜の復興に力を注ぐ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されている。

施設概要

施設名	三溪園(さんけいえん)
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
連絡先	TEL: 045-621-0635
公式HP	www.sankeien.or.jp
Instagram	www.instagram.com/sankeien_garden
Twitter	twitter.com/HSankeien
開園時間	9:00~17:00(最終入園 16:30) 観蓮会期間中は7:00開園
休園日	12月26日~31日
アクセス	JR根岸線根岸駅から市営バスで10分「本牧」下車、徒歩10分 横浜駅東口から市営バスで40分「三溪園入口」下車、徒歩5分



本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 事業課 広報担当 岩本・加藤

TEL: 045-621-0635 / FAX: 045-621-6343

MAIL: iwamoto@sankeien.or.jp